

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493100570	事業の開始年月日	令和2年10月1日
		指定年月日	令和2年10月1日
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ横浜大久保グループホーム		
所在地	(233-0007) 横浜市港南区大久保3-38-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和5年11月13日	評価結果 市町村受理日	令和6年3月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

横浜の中心部に位置し、横浜横須賀道路の別所インターから車で5分という好立地に恵まれた閑静な住宅街の中に開設し、18年目を迎えようとしています。地域との結びつきも固く、町内の催し物や学校行事等にもご招待頂いております。（2020年、2021年、2022年度は新型コロナウイルス感染症予防のため中止）正に地域と共に歩み、地域の中に存在し、地域の方にも受け入れられているホームです。

ご自宅の様にゆっくり寛いで過ごして頂きたいと考え、起床時間や就寝時間は特に設けず、ご希望の方はお昼寝もして頂いております。これまでのご生活を尊重し、無理のない範囲でお掃除や食器拭き等のお手伝いをお願いしたり、立位が出来ない方へも洗濯物畳みや新聞折をお願いし、役割を持って頂くことにより、必要とされているという実感を得て頂けるよう支援を行っております。昨年より庭に家庭菜園の場を作り、男性のお客様にも活躍の場を提供する事が出来ました。

また、ご入居に際しては、介護度で選ぶことなく特にお困りのご家族様のお力になれるよう、親身になってご相談にのらせて頂いており、最期の時をホームで迎えたいとご希望されるご家族様には医師、看護師、歯科医師と連携を図りながらご対応をさせて頂いております。

ご家族様、ご本人様、スタッフが共に安心して笑顔で過ごすことが出来るよう、適宜カンファレンスを開いたり、医師との面談も行いながら、お客様の毎日を支えております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年1月11日	評価機関 評価決定日	令和6年3月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は市営地下鉄・京急電鉄「上大岡」から神奈中バス11分「普門院前」下車、なだらか坂を上った、住宅や集合住宅が散在する静かな環境の中に立地しています。庭にウッドデッキがある明るい外壁の鉄筋2階建て2ユニット定員18名のグループホームです。

<優れている点>
基本大理念の一つ「尊厳を守り寄り添う介護」を大切に、入居者を「お客様」または名字で呼び、常に尊敬の念と愛を持って支援にあたっています。主役はお客様であり「お客様のことが好きになることが一番大切である」と、職員に指導しています。管理者自らが24時間オンコールに対応し、職員を励まし管理者候補の育成と認知症の入居者に向きあっています。「安全・安心・お客様の命を守る」ことと努めています。また、地域の中で愛されるホームとなるべくコロナ禍であっても、毎週木曜日の公園清掃や、自治会と連携し、防災相互協力・地域行事・人的交流・地域貢献など、日本一満足できるグループホームを目指しています。働き易い環境整備と職員のチームケアに注力しています。廊下には入居者と職員の協同制作ペットボトルキャップアート作品を展示しています。

<工夫点>
エレベータ脇のスペースを有効活用した相談ブースや、事務所をカーテンで仕切り職員休憩室を確保しています。また、庭の菜園での野菜づくり・庭のベンチで日光浴・施設建物の外周を散歩するなど、利用者が外気に触れる楽しみを工夫しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68 株式会社フィールズ	

事業所名	ツクイ横浜大久保グループホーム
ユニット名	1階 せせらぎフロア

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念はスタッフと共に作り、その浸透の為に毎朝唱和を行っている。 サービスは理念に基づき、互いに言葉を掛け合い、日々のケアにあたっている。	令和2年7月に改訂した、基本大理念「尊厳を守り・チームワーク・地域の中で・・・」3項目を毎日朝礼時に唱和を行い、特に尊厳を最重要視し、主役は入居者であり、常に尊敬の念と愛を持って「お客様のことが好きになることが一番大切である」と、管理者はスタッフに伝えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	さつき台自治会に所属し、運営推進会議の開催等、積極的に地域住民と交流を図っている。 また、スタッフの多くは近隣からの通いで、広く地域の情報収集に貢献している。	今年発行された「さつき台自治会」60周年記念誌に、管理者が祝辞を寄稿しています。地域の夏祭りや、やぐら組み立ての際に職員が協力したり、神輿の神酒所にもなり子ども達に飲み物のふるまいもしています。地域防災への相互協力、公園の清掃を毎週木曜に実施するなど、地域との交流に努めています。	地域の人を対象にした「認知症の正しい理解と対応」に関する講座の開催や、庭の菜園で収穫した野菜などを使った企画など、事業所が主体となり地域交流できる機会の創出も期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議等で情報を発信を行うと共に、誰でも気軽に尋ねて来れる施設として存在している。散歩途中の老夫婦が見学を訪れた事もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は奇数月に開催しており、参加者は自治会長、副会長、民生委員、ケアプラのケアマネ等概ね毎回7名程度の地域住民とご家族様が参加し、相互情報共有の場として大いに役立っている。	9月開催の会議は、自治会長・副会長・会員・民生委員4名・利用者家族2名・区職員、計10名と多くの人の参加を得ています。運営方針「ともに地域価値を創造するツクイ」をもち、活動報告を行い、自治会からは秋の運動会の誘いを受けるなど相互共有を図っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の議事録は必ず手渡しで区役所の担当職員に渡すようにしており、積極的に話しかける事により、施設の存在をアピールしている。また、区役所からの参加も9月度は見られた。	港南区職員やケアプラザへは、運営推進会議不参加時にも必ず出向いて、担当者へ議事録を手渡しています。ケアプラザとは、空室発生時の紹介の依頼や、生活保護者受け入れも行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	2か月に1度、委員会を開催し、各フロアの現状について、問題点や改善点を話し合っている。また、年に2回の研修も開催し、資質向上に努めている。議事録は必ず回覧を行い、閲覧者の押印を求めている。議事録は事務所に置き、必要時に誰でも閲覧可能としている。	身体拘束適正化委員会と虐待委員会を一体で開催しています。議事録は全職員へ回覧し押印で周知の確認もしています。また運営推進会議でも会議内容を報告し、透明性を図っています。研修会も年2回ユニット合同開催をしていましたが、現在は、全員が受講できるようにeラーニングで行っています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	2か月に1度、委員会を開催し、年に2回の研修も行いながら資質向上に努めている。議事録は必ず回覧を行い、閲覧者の押印を求めている。また、夜勤業務の負担軽減等、ストレスへ配慮しながら虐待防止に努めている。	緊急に話し合いが必要な時はリーダーが招集し委員会を開催しています。また、年2回eラーニングで研修をしています。受講日と報告書提出状況を把握しています。職員全員分の受講状況の一覧を作成し事務所に掲示し、早期受講と報告書の提出を促しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	研修やマニュアルを整備しながら理解に努めている。現在2階フロアのお客様1名が後見人制度を利用している。この為、より身近に感じ取り、自ら学ぶ姿勢が見られている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関してはご本人様、ご家族様のご事情を尊重し、フロアの現状と鑑みて説明を誠実に行っている。改定の際にも対称表にて丁寧に説明を行い、合意と同意を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談室に意見箱を設置し、意見の徴収を行っている。また、運営推進会議開催の前にも、アンケートを配布し、広く意見を集めている。今年はお家族様から労いのお手紙を頂く事が出来、スタッフの励みになりました。	運営に対する利用者・家族等意見の反映にも努めています。外部評価実施時の家族アンケートの他に、法人によりアンケートも実施し意見や要望の把握に努めています。メールの意見も含めて、労いや感謝メッセージが多く、個室担当職員からの写真添付した家族への手紙は高評価となっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個別の面談、更新時面談、夜勤者面談等で、意見を聴き、一緒に考えるよう働きかけを行っている。また、必要であれば、本人の了解のもと、フロア会議等で議題として取り上げている。	個別面談を実施しています。夜勤者とは年2回実施し虐待に関するアンケートも行っています。結果は、法人のシステムに入力し、管理者が代わっても把握できる仕組みがあります。フロア会議は多くの職員が参加しやすい時間帯16:30～17:00に設定し、意見を聴き反映に努めています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアデザインや、目標設定、評価シートなどを用いて、個々の希望達成や、研修の機会を設けている。また、個別面談等でも、将来への展望などを聞き取り、やりがいが持てるよう対応を行っている。	正社員は評価シートを用いて目標の設定をします。管理者は目標達成に向けた難易度に対し、やる気を引き出す「役割とお願い」など助言をし、賞与・昇給に反映させています。パート職員へはシフトの希望や調整を図り、チームワークで共に成長し最大効果の発揮に努めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月の研修の他に、資格取得の補助やイーケアラボの活用等、幅広く職員育成に力を入れている。また、年齢に応じたシフトチェンジも柔軟に行い、誰一人取りこぼさないよう広い視野で対応を行っている。	新人研修「ツクイの教育」はオリエンテーションと管理者からレクチャーとし、8時間の研修としています。必須の新人研修受講により職員としての意識を高めています。資格取得の補助や国家資格取得者には手当も整備しています。学ぶべきは「利用者に対してどんなケアをするのか」を常に一番に心がけています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	今年は近隣のGHから転居された方もおり、ご挨拶を行う事が出来た。今後もツクイのサービスのみではなく、他事業所と広く交流を持ちながら、相互協力・相互向上を目指して行きたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご入居前には可能な限り、ご本人様の落ち着ける場所で、生活歴や現在困っている事、不安に思う事を聞き取り、取り除く努力を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご見学時や、ご入居前に、ご家族様と話し合いの機会を設け、施設の方針、支援の方法等を説明しながら、ご家族様の想いを話して頂き、不安な気持ちなく入居に結びつける努力を行っている。また、ご家族様のご希望も積極的にケアプランに組み入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の介護サービス先の情報等を集めながら、ニーズの洗い出しに努めている。また、ご家族様が必要とするサービスについてもトータルサービスと連携し、解決に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	パーソンセンタードケアの精神を大切にし、その想いはパンフレットにも盛り込んだ。スタッフも出来る力を最大限に引き出し、笑顔の中で暮らして頂きたいという思いで支援を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	生活歴の聞き取りや、これまでご家族様が苦勞されたこと等を聞き出す事により、今後一緒に進んで行くという同じ目標を持って頂く事が出来ている。また、必要時は家族に連絡し、様子報告し、協力して頂いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	ご家族様とお墓参りや、結婚式などへの参加を積極的に促していたが、現在は感染症防止の観点から、外出はなるべくご遠慮頂いている。ご家族様へはお写真などをお持ちいただくよう、お願いしている。	コロナ禍前は家族と冠婚葬祭の行事等で長時間外出の機会もありましたが、現段階でも高齢者の感染リスクは高く、外出した場合は1日間は居室で過ごして貰うように、万全な感染症対策を徹底した上で実現しています。電話の取り次ぎや、入居者の様子の写真を沢山送っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	相性を見ながら適宜フロアでの席を替えたり、協同作業やレクリエーション等を通じてお互いの存在を受け入れられるように支援を行っている。ただし、落ち着ける場所が必要な方には一人席もご用意してその方のペースを尊重している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	転居された方や、ご逝去されたご家族様に対しても、何かあればいつでもご連絡を頂くよう、お伝えしている。ご逝去後数年経ってもご家族様がお顔を見せに来て下さることがあり、それがスタッフのモチベーションアップにも繋がっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人のペースを尊重し、お持ちいただいた物品やお写真などからヒントを頂き、これまでの暮らしの延長のようなお気持ちで過ごして頂けるよう、配慮を行っている。	入居前に、今までの暮らしの情報や本人の好きな物・やりたい事を聞き出して、一人ひとりの思いを把握するようにしています。特に夜間帯は情報が聞ける宝庫とし傾聴に努めています。入浴介助の際にも個別の話を聞く機会としています。また意思疎通が困難な人には「目」をよく観察して感情を察するように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の介護サービス先の情報等を集めながら、ニーズの洗い出しに努めている。また、ご家族様が必要とするサービスについてもトータルサービスと連携し、解決に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎月のカンファレンスを基にスタッフの意見を幅広く集め、情報の収集に努めると共に、緊急時にも話し合いの場を設けている。また、必要であればケアプランの変更も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居前の介護サービスの情報や聞き取り、ご家族様のご意見、ご本人様との話し合いを基にスタッフとカンファレンスを開催、更に居室担当者を決定し、ケアプラン作成時に意見を取り入れている。	本人、家族と居室担当の思いも取り入れて計画の作成をしています。「花に水やり」などの、「役割り」をケアプランに組み込み、「人に頼りにされている」という自尊心を大切にしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録はタブレットにて入力できるシステムになっており、施設内で情報の共有がスムーズに行えている。また、補足事項などは連絡ノートや業務日誌にて回覧を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人様が必要としているもの見極めを行い、どの角度で支援を行って行くのか常に話し合う機会が持たれている。また、介護サービス以外でも対応が可能となっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	晴れている日には近くのコンビニに散歩しながら歩いて行き、その日のおやつと一緒に選んで頂いたり、菜園で花や野菜を収穫し、料理を手伝って頂いたり、その方にとって楽しめる事を常に探し、対応を行っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の選定はご家族様やご本人様の意向が優先され、かかりつけ医を持たない方に対しては日頃の様子観察や特変時の対応として、施設に出入りしているかかりつけ医を紹介している。（みらい在宅、みずほクリニック等複数あり。他を探す事も行っている）	ほとんどの利用者は提携医ですが、入居前のかかりつけ医の受診継続も選択することができます。歩行器導入のアドバイスから歩き方が改善した事例もあります。医師に気軽に相談できる環境により安心できる医療連携となっています。急な体調変化で受診が必要になった際は、家族の付き添いをお願いしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週金曜日に訪問看護師が全ご入居者様の健康観察を行っている。また、緊急時の電話相談や訪問も24時間体制で行っている。訪問看護師が必要と判断した場合には往診医に繋げており、医師との連携を図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師を交え、状態の把握や早期退院に向けた話し合いを病院関係者で行うようにしている。また、退院後の生活についても入院中に医師、看護師と話し合いを行い、ご家族様のご希望も取り入れた上で安心して迎えられる環境作りを構築している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期であると医師が判断した場合は、施設にご家族様にお出で頂き、医師を交えて丁寧な説明と同意を頂いている。また、居室担当者を中心にご家族様のご希望を基に安心できる環境を提供できるよう留意している。お看取り対応となった場合は研修の機会を設け、偲びのカンファレンスも開催している。	終末期には医師を交えて家族の要望を聞いています。夜勤時間帯に体調が急変した場合には、管理者が直ぐに駆けつける安心のサポート体制をとっています。偲びのカンファレンスではスタッフへのアフターフォローと「看取りに選ばれるスタッフは名誉である」ことを教えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な研修の場や、緊急時のマニュアルの整備を行っており、特変時にも慌てず対応できるよう訓練を行っている。また、管理者、計画作成担当者は24時間の電話連絡を可能とし、不測の事態に備えている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	事業継続計画を策定し、各フロアに整備している。また、緊急時の避難先や連絡先等は各フロア事務所に掲示し、必要時にすぐに確認できる体制を整えている。	夜間想定訓練では、車いす対応の人の避難も行っています。職員2人で階段を使って駐車場までの避難を繰り返し行い入居者の命を守る訓練をしています。備蓄品リストを作成し管理しています。昨年の更新時には、非常食を試食し美味しいものに変更しています。地域住民の協力支援体制も確立しています。	備蓄品の保管場所が数カ所に分散されている為、倉庫に「非常用備蓄品○」と解りやすく表記し、緊急時に直ぐ使えるように、棚を区別するなど、整理・整頓の改善工夫を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その方の性格や生き方を最大限に尊重し、丁寧な支援を心掛けている。 また、プライバシー・人権擁護・個人情報に関する研修などスタッフ一人一人が無理のない時間に学習できるよう、イーケアラボを活用している。個人情報や薬の保管には鍵付き書庫を使用している。	管理者は、大理念でもある「尊厳を守り寄り添う介護」を、一番に主役はお客様であることをスタッフへ常々伝えていきます。接遇研修も行っていますが、まずは管理者が率先して利用者と接している姿、介助している姿を、やって見せることが一番伝わると考えて行動しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	お客様が話しやすい雰囲気作りや、ゆったりと対話ができるよう、時間配分等を見直しながら、お客様のご希望や自己決定を促すと共に、頂いた情報についてはスタッフ間で情報の共有に務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	それまでの生活を大切にし、お一人お一人のペースを尊重して支援を行うようにしている。また、ご家族様からも聞き取りを行い、自身で伝えられない方に対しても留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的な訪問理美容を軸に、ご本人様のご希望に沿ったケアを実施している。化粧や髪染めなどにも対応し、いつまでも自身に誇りが持てるよう支援を行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食レクなどを通じ、『楽しい』と思える食生活を心掛けている。 食事の支度や片づけなどは、可能な方には職員と共にいき、立位が取れない方にも座って出来るお手伝い等をお願いしている。	庭の菜園で収穫した野菜を使って食事作りをしたり、母の日や鏡開きなどの、イベント食を楽しんでもらえるように工夫しています。食事の際は誤嚥防止の為に、必ず一度自分でお茶碗を持ってもらい「今から食べるぞ」と脳に信号を送ってもらうようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取量や食事量などはタブレットで共有しており、必要事項を申し送りながら、食事の組み立てを行っている。また、好みに応じて柔軟に対応も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	月に2回と緊急時の歯科往診を可能とし、歯科医師の指導を受けながら口腔ケアを行っている。また、嚥下の状態確認は専門医を呼ぶことも可能で、誤嚥性肺炎等に気を付けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	なるべくトイレでの排泄を目指し、立位が不安定な方などはスタッフ二人でトイレ介助を行っている。排泄状況はボードで一目で解るよう、チェックを行い、データを取りながらトイレに誘導するよう心がけている。	排泄状況を把握するボードを確認して、トイレ誘導しています。自立の人は排泄状況を入居者自ら教えてもらい、職員は「待つ」という見守りもしています。便秘対策は水分を摂る他、朝一番で牛乳・乳酸菌飲料・リンゴジュースなどの提供や看護師によるお腹周りのマッサージをすることもあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便状況もボードで確認を行いながら、医師や看護師の助言を得ている。自然な排便を促すため、牛乳の提供や、軽い運動等も支援している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴拒否が見られた場合は、時間に捕らわれずに対応を行うようにしている。また、入浴剤の使用、季節のゆず湯、菖蒲湯など、入浴を楽しんで頂けるよう支援を行っている。	入浴拒否の人へは、好きな洋服に着替える・入浴剤を一緒に選んで貰うなどの声掛けを工夫して促しています。ヒートショック防止のため、事前に暖房を付けて室温を保っています。湯船への入浴が困難な人はシャワー浴とし、足浴も並行で行い身体が冷えないように配慮しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	身体状況やご本人様のご希望に沿い、適宜休息できるように支援を行っている。また、夜間帯の睡眠時間とのバランスを考えながら、休息時間を設定し、適宜お声をかけさせて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師の処方時には調剤薬局の薬剤師が付き添い、説明を受けている。また、ご本人様の状況が変わった時等も医師や薬剤師にすぐに相談できる体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お手伝いや趣味の編み物、塗り絵などお一人お一人の楽しみごとを通じながら自信が持てるように支援している。出来上がった作品を壁にかけて鑑賞したり、写真を撮影しご家族様にも送付している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	長時間の外出は感染症防止の観点でご遠慮頂いているが、近所への散歩や庭の菜園の手伝い等、なるべく外の風を感じ、気分転換を図って頂けるように留意している。散歩が可能な方であれば、天気の良い日はほぼ毎日施設外周を行っている。	コロナ禍のため感染症防止の観点から外出を自粛し、遠出は控えていますが、ほぼ毎日施設の外周を散歩しています。庭の菜園で花や野菜づくりや、ウッドデッキでの外気浴などで、気分転換を図っています。状況を見ながら少しずつ面会が再開できるように検討をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご入居の際にお金を持ちたいと希望される方に対しては、ご家族様に確認の上、可能としている。ただし、施設で買い物を行う際には立替金にて支払いを行うシステムの為、実際にお金を必要とする場面はないが、今後は訪問の買い物サービス等も視野に入れ、自分で選んで自分で購入する喜びも感じて頂けるよう支援を考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	施設の電話の使用を可能としている。また、携帯電話の持ち込みも可能としており、必要に応じて充電の支援や確認を行いながら、外部との繋がりを大切にしている。また、お手紙に関してもご希望があれば作成のお手伝いを行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関やフロアなどには季節の草花を飾り、季節感の演出に努めている。また、庭のミニ菜園でも季節の花を育て、お客様と一緒に摘み取る楽しみを提供している。音や光、色、広さ等はお一人お一人で感じ方が違うが、席の移動やカーテンなどで出来る限り快適に過ごして頂けるように配慮している。	個々の生活状況をみて席の配置にも気を配っています。日中はリビングで多くの入居者がゆっくりと過ごしています。レクリエーション活動は強要せず、個々の得意分野を見極めて勧めています。塗り絵や二桁掛け算の脳トレなど、入居者が好きな活動を通じて楽しく過ごしてもらえるような声掛けをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	その日、その時のご様子で、適宜席を移動したり、一人で過ごせる環境作りに留意している。また、スタッフも必要に応じて介入しながら、楽しくお客様同士が過ごせるよう配慮を行っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様の使い慣れた物などの持ち込みを推奨しており、お仏壇の設置も可能としている（火気は厳禁）。お写真を飾ったり、テレビの設置も可能となっている。掃除に関しても、スタッフと一緒に掃除をして頂きながら自宅にいつような気持ちになって頂けるよう配慮を行っている。介護ベッド施設レンタル。個別担当制度あり。	エアコン、ベッド、カーテン、クローゼットを備え付けています。自宅にいた時と同じような動線になるよう家族に配置を決めてもらっています。また、家族からの要望で転倒防止のセンサーマットや、離脱防止のためにGPSを付けた靴に換えるなど、利用者の安全を見守っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレ、フロアには手すりが設置されており、安全に配慮しながら自由に移動できる環境となっている。トイレに関しても3か所設置しており、一目でトイレと解るイラストで表示してある。		

事業所名	ツクイ横浜大久保グループホーム
ユニット名	2階 ひだまりフロア

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念浸透の為に、毎朝の唱和を行っている。また、理念に沿った尊厳の重視、チームワークの重要性を話し合い、実践に結びつける努力を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	さつき台自治会に所属し、運営推進会議の開催等、積極的に地域住民と交流を図っている。また、スタッフの多くは近隣からの通いで、広く地域の情報収集に貢献している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議等で情報を発信を行うと共に、誰でも気軽に尋ねて来れる施設として存在している。ご入居のお客様も、近隣からのご入居や、近隣ケアマネからの紹介もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は奇数月に開催しており、参加者は自治会長、副会長、民生委員、ケアプラのケアマネ等概ね毎回7名程度の地域住民とご家族様が参加し、相互情報共有の場として大いに役立っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議の議事録は必ず手渡しで区役所の担当職員に渡すようにしており、積極的に話しかける事により、施設の存在をアピールしている。また、区役所からの参加も9月度は見られた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	2か月に1度、委員会を開催し、各フロアの現状について、問題点や改善点を話し合っている。また、年に2回の研修も開催し、資質向上に努めている。議事録は必ず回覧を行い、閲覧者の押印を求めている。議事録は事務所に置き、必要時に誰でも閲覧可能としている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	2か月に1度、委員会を開催し、年に2回の研修も行いながら資質向上に努めている。議事録は必ず回覧を行い、閲覧者の押印を求めている。また、夜勤業務の負担軽減等、ストレスへ配慮しながら虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を開催し、理解に努めている。現在後見人制度を利用しているお客様がいらっしゃる為、より深く理解する事が必要であり、今後も研修等で学ぶ機会を設けていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関してはご本人様、ご家族様のご事情を尊重し、フロアの現状と鑑みて説明を誠実に行っている。改定の際にも対称表にて丁寧に説明を行い、合意と同意を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談室に意見箱を設置し、意見の徴収を行っている。また、運営推進会議開催の前にも、アンケートを配布し、広く意見を集めている。今年はお家族様から労いのお手紙を頂く事が出来、スタッフの励みになりました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個別の面談、更新時面談、夜勤者面談等で、意見を聴き、一緒に考えるよう働きかけを行っている。また、必要であれば、本人の了解のもと、フロア会議等で議題として取り上げている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアデザインや、目標設定、評価シートなどを用いて、個々の希望達成や、研修の機会を設けている。また、個別面談等でも、将来への展望などを聞き取り、やりがいが持てるよう対応を行っている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月の研修の他に、資格取得の補助やイーケアラボの活用等、幅広く職員育成に力を入れている。また、年齢に応じたシフトチェンジも柔軟に行い、誰一人取りこぼさないよう広い視野で対応を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	今年は近隣のGHから転居された方もおり、ご挨拶を行う事が出来た。今後もツクイのサービスのみではなく、他事業所と広く交流を持ちながら、相互協力・相互向上を目指して行きたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントを丁寧に実施し、ご本人が安心して暮らせるように、不安、困り事への対応をケアプランに援助内容も組み入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご見学時や、ご入居前に、ご家族様と話し合いの機会を設け、施設の方針、支援の方法等を説明しながら、ご家族様の想いを話して頂き、不安な気持ちなく入居に結びつける努力を行っている。また、ご家族様のご希望も積極的にケアプランに組み入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントを丁寧に実施し、ご本人がどのような支援を求めているかを聞き取りし、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者には、生活リハビリを始め、出来ることは一緒にしながら、暮らしを楽しんでいただき、誰かの役に立ちたいという思いが叶うよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	生活歴の聞き取りや、これまでご家族様が苦勞されたこと等を聞き出す事により、今後一緒に進んで行くという同じ目標を持って頂く事が出来ている。また、必要時は家族に連絡し、様子報告し、協力して頂いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様とのお墓参りや、結婚式などへの参加を積極的に促していたが、現在は感染症防止の観点から、外出はなるべくご遠慮頂いている。面会の少ない家族には、電話連絡し、本人と直接話して頂く等、工夫し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食席の配置を考慮し、孤立せず、関わりあり、楽しく過ごせるよう配慮している。トラブルになりそうな時は、スタッフが介入し、関係が崩れないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	転居された方や、ご逝去されたご家族様に対しても、何かあればいつでもご連絡を頂くよう、お伝えしている。 ご退去後数年経ってもご家族様がお顔を見せに来て下さることがあり、それがスタッフのモチベーションアップにも繋がっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人のペースを尊重し、お持ちいただいた物品やお写真などからヒントを頂き、これまでの暮らしの延長のようなお気持ちで過ごして頂けるよう、配慮を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族からの聞き取りをベースに把握に努めている。また、入居前の介護サービス先の情報等を集めながら、ニーズの洗い出しに努めている。また、ご家族様が必要とするサービスについてもトータルサービスと連携し、解決に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	スタッフ間で情報を共有し、出来ることを見出すよう努めている。また、一人ひとりの生活ペースに合わせて過ごせるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居前の介護サービスの情報や聞き取り、ご家族様のご意見、ご本人様との話し合いを基にスタッフとカンファレンスを開催、更に居室担当者を決定し、ケアプラン作成時に意見を取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録はタブレットにて入力できるシステムになっており、施設内で情報の共有がスムーズに行えている。また、補足事項などは連絡ノートや業務日誌にて回覧を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人様が必要としているもの見極めを行い、どの角度で支援を行って行くのか常に話し合う機会が持たれている。また、介護サービス以外でも対応が可能となっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	晴れている日には近くのコンビニに散歩しながら歩いて行き、その日のおやつを一緒に選んで頂いたり、菜園で花や野菜を収穫し、料理を手伝って頂いたり、その方にとって楽しめる事を常に探し、対応を行っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の選定はご家族様やご本人様の意向が優先され、かかりつけ医を持たない方に対しては日頃の様子観察や特変時の対応として、施設に出入りしているかかりつけ医を紹介している。（みらい在宅、みずほクリニック等複数あり。他を探す事も行っている）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週金曜日に訪問看護師が全ご入居者様の健康観察を行っている。また、緊急時の電話相談や訪問も24時間体制で行っている。訪問看護師が必要と判断した場合には往診医に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師を交え、状態の把握や早期退院に向けた話し合いを病院関係者で行うようにしている。また、退院後の生活についても入院中に医師、看護師と話し合いを行い、ご家族様のご希望も取り入れた上で安心して迎えられる環境作りを構築している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期であると医師が判断した場合は、施設にご家族を呼び、意思を交えた丁寧な説明と同意を頂いている。また、居室担当者を中心にご家族様のご希望を基に安心できる環境を提供できるよう留意している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な研修の場や、緊急時のマニュアルの整備を行っており、特変時にも慌てず対応できるよう訓練を行っている。また、管理者、計画作成担当者は24時間の電話連絡を可能とし、不測の事態に備えている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	事業継続計画を策定し、各フロアに整備している。また、緊急時の避難先や連絡先等は各フロア事務所に掲示し、必要時にすぐに確認できる体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その方の性格や生き方を最大限に尊重し、丁寧な支援を心掛けている。 また、プライバシー・人権擁護・個人情報に関する研修などスタッフ一人一人が無理のない時間に学習できるよう、イーケアラボを活用している。個人情報や薬の保管には鍵付き書庫を使用している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	お客様が話しやすい雰囲気作りや、ゆったりと対話ができるよう、時間配分等を見直しながら、お客様のご希望や自己決定を促すと共に、頂いた情報についてはスタッフ間で情報の共有に務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	それまでの生活を大切にし、お一人お一人のペースを尊重して支援を行うようにしている。また、ご家族様からも聞き取りを行い、自身で伝えられない方に対しても留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的な訪問理美容を軸に、ご本人様のご希望に沿ったケアを実施している。化粧や髪染めなどにも対応し、いつまでも自身に誇りが持てるよう支援を行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の下ごしらえや、簡単なおやつ作り等をしていただいている。片付けは率先して手伝ってくださる入居者と一緒に談笑しながら行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ケアプランに具体的に必要な食事形態や形式を記載し、無理なく必要な食事量、水分量が摂取出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	月に2回と緊急時の歯科往診を可能とし、歯科医師の指導を受けながら口腔ケアを行っている。また、嚥下の状態確認は専門医を呼ぶことも可能で、誤嚥性肺炎等に気を付けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	なるべくトイレでの排泄を目指し、立位が不安定な方などはスタッフ二人でトイレ介助を行っている。排泄状況はボードで一目で解るよう、チェックを行い、データを取りながらトイレに誘導するよう心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便状況もボードで確認を行いながら、医師や看護師の助言を得ている。自然な排便を促すため、牛乳の提供や、軽い運動等も支援している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴拒否が見られた場合は、時間に捕らわれずに対応を行うようにしている。また、入浴剤の使用、季節のゆず湯、菖蒲湯など、入浴を楽しんで頂けるよう支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	身体状況やご本人様のご希望に沿い、適宜休息できるように支援を行っている。また、夜間帯の睡眠時間とのバランスを考えながら、休息時間を設定し、適宜お声をかけさせて頂いている。日中も休息が必要と思われる入居者には、声掛けし対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師の処方時には調剤薬局の薬剤師が付き添い、説明を受けている。また、ご本人様の状況が変わった時等も医師や薬剤師にすぐに相談できる体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者の嗜好、趣味、能力に合わせ、手芸、パズル、体操、談話等で気分転換し、楽しみ多く過ごして頂けるよう努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	長時間の外出は感染症防止の観点でご遠慮頂いているが、近所への散歩や庭の菜園の手伝い等、なるべく外の風を感じ、気分転換を図って頂けるように留意している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご入居の際にお金を持ちたいと希望される方に対しては、ご家族様に確認の上、可能としている。ただし、施設で買い物を行う際には立替金にて支払いを行うシステムの為、実際にお金を必要とする場面はないが、今後は訪問の買い物サービス等も視野に入れ、自分で選んで自分で購入する喜びも感じて頂けるよう支援を考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	施設の電話の使用を可能としている。また、携帯電話の持ち込みも可能としており、必要に応じて充電の支援や確認を行いながら、外部との繋がりを大切にしている。また、お手紙に関してもご希望があれば作成のお手伝いを行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関やフロアなどには季節の草花を飾り、季節感の演出に努めている。また、庭のミニ菜園でも季節の花を育て、お客様と一緒に摘み取る楽しさを提供している。音や光、色、広さ等はお一人お一人で感じ方が違うが、席の移動やカーテンなどで出来る限り快適に過ごして頂けるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにはソファを設置し、一人で過ごしていただいたり、気の合う方と食席を離れて談話していただいたりしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様の使い慣れた物などの持ち込みを推奨しており、お仏壇の設置も可能としている（火気は厳禁）。お写真を飾ったり、テレビの設置も可能となっている。掃除に関しても、スタッフと一緒に掃除をして頂きながら自宅にいつような気持ちになって頂けるよう配慮を行っている。介護ベッド施設レンタル。個別担当制度あり。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレ、フロアには手すりが設置されており、安全に配慮しながら自由に移動できる環境となっている。トイレに関しても3か所設置しており、一目でトイレと解るイラストで表示してある。		

2023年度

事業所名 ツクイ横浜大久保グループホーム
 作成日： 2024年 3月 17日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ発生以降、運営推進会議を1回しか対面で開催する事が出来ておらず、施設の現状を知って頂く機会が無かった。	運営推進会議の対面開催の実施および、施設内の取り組み等を発信し避難訓練等に参加を呼びかける。	5月開催予定の運営推進会議は対面で開催し、同日に避難訓練も実施する。また、4月から感染症対策を継続しながら直接面会を再開する。	2ヶ月
2	16	災害備蓄品の保管場所が相談室横になっており、見た目が悪く、お客様が来設された場合に寛げない。	施設敷地に倉庫を置くことも検討したが、敷地内増設は難しいと本社の回答があった為、別の方法を考える。	非常災害の段ボールには何が入っているかは明記しているため、相談室の保管場所とお客様の視線が遮れるよう落ち着いた感じのパーテーションを設置した。	達成済
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月